

## 大切にしあえる仲間 活力ある児童をめざして

### — 算数科を中心とした確かな学力を身に付けた子の育成—

白山市立東明小学校

#### 1 事例の概要

##### (1) 研究の内容

本校では、一人ひとりの存在感のある学習集団が確かな学力を支える基盤になると考え、児童が関わりあって学ぶ学習集団づくりを大事にしながら、「確かな学力」を身に付けた子どもの育成をめざす。それに向けた指導体制と指導方法の改善のために、算数科を中心として少人数授業を行い、個に応じた指導や評価の効果的な在り方について追究する。

##### (2) 研究方法

###### ① 3つの重点研究部による主体的な研究

下記の3つを研究の重点とし、あすなる学級（特殊学級）を含めた学年集団を中心として、各重点研究部に所属し、それぞれの重点研究部で明らかになった指導体制や指導方法を教師全員で共有し、その後の指導に生かす。

・思考力を育てる授業 ・発展的に考える力を育てる授業 ・個の実態・評価をいかした授業

###### ② 朝学習の活用、学習の構えの定着

年間を通じて朝学習に取り組む。全校で学習の構えカードに取り組む。

#### A-1 学校研究

#### 2 実践内容

##### (1) 思考力部会

###### ① 研究の柱 「問題把握力の育成」「問題解決力の育成」「思考をみとる評価（方法）」

###### ② 研究内容

問題作り、問題解決を交互に行い、問題の構成や意味が理解できるようにした。問題分析や文字に慣れるための手だてをとった。考えを吹き出しに書いたりキーワードを決めたりして、自分の意見がもてるように働きかけた。学習モデルやサンプルを示し、論理的な説明ができるような場を持った。リアルタイム評価を行い、その場ですぐに子どもたちを支援した。

##### (2) 発展部会

###### ① 研究の柱 「発展的に考える力の育成」「もたせる」「出させる」「見取る」「返す」

###### ② 研究内容

発展的に考える力を育てるために、算数のノートを「考えるノート」と「できる・わかるノート」の2冊にし、学習内容に応じて使い分けるようにした。学習時には自分の考えをノートに書く時間を確保し、学習の流れにそって、友達の考えも書き込むようにした。「思考シート」を用いて問題に対する自分の考えをはっきりと記録し、自分の思考の流れが残るようにした。

##### (3) 評価部会

###### ① 研究の柱 「授業に生かす評価方法」「やる気がでる評価方法」「評価を生かした授業づくり」

###### ② 研究内容

一人一人の個別性を大事にしながら、表情の変化、つぶやき、子ども同士の対話に耳を傾け、授業を進めた。やる気が出る自己評価カードに取り組んだ。また、かかわり学びをすることにより、個が活躍する場ができると考え、グループで説明や質問をし合い、互いのよさを認め合うように働きかけた。あすなる学級では、個の興味・関心を生かした単元設定、学習段階を踏まえた教材・教具の工夫を行い、学習を展開した。

#### (4) 学校全体として

確かな学力を支えるための基盤として、学校全体で学習の構えの確立のため、「学習の構えカード」に取り組んだ。また、各クラスの学級経営案についての交流会や学習規律についての意見交流会をもち、学校全体としての学びの体制作りに関心した。朝学習では、読書・計算などを行った。年間3回読書旬間を決め、朝読書や読み聞かせを行った。算数チャレンジウィークとして期間を設定した。

**B-1 各部会の研究**

**B-2 学習の構えカード**

**B-3 チャレンジウィーク**

### 3 指導の実際

3年生くパッと見てわかる見やすい棒グラフを作ろう

自分のデータに合わせて見やすい棒グラフのシートを選ぶ。

- ・どの項目をその他にまとめるのか。
- ・たて棒グラフか、よこ棒グラフか。
- ・どのグラフシートに書くか。
- ・グラフの色は何色か。

6年生く底面積 $8\text{ cm}^2$ 高さが $3\text{ cm}$ になる立体は、必ず体積が $24\text{ cm}^3$ になる。この考えは正しいか  
3種類の立体を手に持ち、自分の考えをシートに書く。その根拠をはっきりさせるために、ヒントカードなどを見て自分の考えを練り上げていく。

- ・底面が他の形で高さが $3\text{ cm}$ の立体を作る。
- ・途中の段に穴あきがあったら $24\text{ cm}^3$ にならない。

**C-1 思考力部会指導案**

**C-2 発展部会指導案**

**C-3 評価部会指導案**

### 4 成果と課題

#### (1) 思考力部会

問題作りを多く取り入れることで、子どもたちは問題の意味をよく理解することができるようになった。また、授業中のリアルタイム評価により、個への支援が明確になった。そのため、子どもたち一人ひとりが自信を持つことができ、次への意欲を持つこともできた。一人一人への支援を明確にすることで、個々の問題把握力も少しずつではあるがついてきている。

#### (2) 発展部会

自分の考えを持ち、ノートに書く時間を確保したことにより、子どもたちは自分の意見を出すことへの抵抗が少なくなってきた。意欲的に説明をしようという姿も見られるようになってきた。思考シートでの取り組みは、問題解決の過程や意味をしっかりと理解させるために有効であった。回数を重ねるごとに記述が豊かになり、数学的な考え方で解決しようとする態度が見られてきた。

#### (3) 評価部会

自己評価カードを取り入れたり、自分の考えを発表する場を持つたりすることで、子どもたちは意欲的に授業に臨むようになった。事実の記録をもとに細かく観察し、子どもの興味関心をつかむことで、単元設定をうまく行うことができた。学習段階を踏まえた教材教具を用いて、理解の定着を図ることができた。あすなろ学級合同の学習により、言語力の広まりを期待している。

#### (4) 学校全体として

「学習の構えカード」での取り組みを定期的に行うことにより、学習準備についての取り組みが統一でき、子どもたちの意識も高まってきた。朝学習の取り組みでも、マイブックを持っている子が増え、学習に対しての基礎的な力が充実してきた。学級経営案の交流や学習規律についての話し合いの結果、学習に対する考え方が学校全体としてまとまってきた。

**D-1 授業の様子**

**D-2 思考シート**

**D-3 自己評価カード**